

必ず読んでください

飲酒による死について 考えたことが ありますか

ストップ！ 飲酒事故・アルコールハラスメント・20歳未満飲酒

学生団体の懇親会での飲酒が原因で塾生が亡くなるという悲痛な事故をはじめ、飲酒にかかる大学生の事故が近年多数発生しています。集団で盛り上げてイッキ飲みを煽るいわゆる「コール」を繰り返しながら大量に飲酒するという激しい飲み方は、死に繋がります。塾生諸君は飲酒についての知識をしっかりと身につけてください。

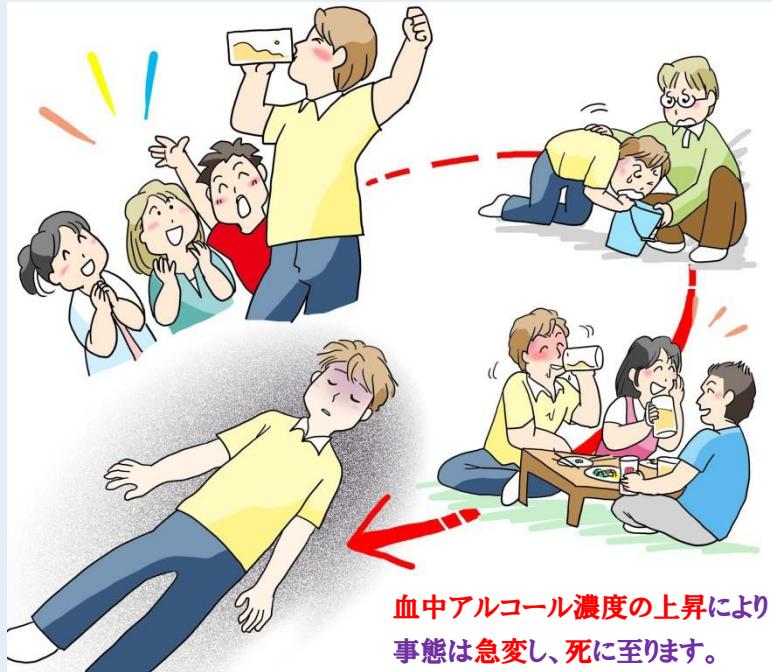
少量の飲酒でも事故は起きます

酒を摂取すると体内に猛毒のアセトアルデヒドが発生します。お酒に弱い人は、この有害物質が高濃度で体内に残りやすく、少量の飲酒でも危険な状態に陥ります。また、普段お酒を飲める人でも、体調が悪い時、空腹時などの飲酒は一層危険につながることもあります。

20歳未満の飲酒は違法行為です

20歳未満の飲酒は、決して行ってはならないし、他人にもさせてはなりません。20歳未満の者が飲酒した場合、飲んだ本人のみならず、その会合を企画した幹事および団体の責任が追及されます。「20歳未満であることを知らなかった」という言い訳は通用しません。

裏面もお読みください



死に至る急性アルコール中毒

急性アルコール中毒は血中アルコール濃度が上昇することにより起こり、酒に強いかどうかという体质とは関係なく発生します。血中アルコール濃度は

「アルコールの量」と「飲むスピード」で決まります。自分はお酒に強いと思っている人が飲みすぎてしまい急性アルコール中毒になるケースも多いのです。

飲酒が脳に及ぼす影響の4段階	
ほろ酔い	大脳新皮質がマヒ
酩酊	マヒが大脳辺縁系に及ぶ
泥酔	大脳全体、脳幹や脊髄にマヒが広がる
昏睡	呼吸機能を制御する延髄までマヒ

コールはNG！飲酒の強要は刑事・民事責任に問われます！

- サークルの伝統として行われる飲み方が事故を招きます。特にイッキ飲みを煽る「コール」は危険ですので行わないでください。
- 断りづらい雰囲気の中で飲酒をすすめることは事実上の「飲酒の強要」であり、アルコール・ハラスメントにあたります。アルハラは断じて許すことはできません。このような飲酒行為に対して慶應義塾大学は厳格な態度で臨みます。

もし酔いつぶれてしまったら

- 絶対に一人にしない
- 体温の低下を防ぐ
- 回復体位を取らせる

この体位で舌根沈下や吐物による窒息を防ぎます



「多分大丈夫だろう」が死につながります



「もしかしたらヤバイかも」と思って病院に搬送してください

ひとりで立ち上がりれない

危険性が高い状態です。病院に搬送してください。

夜間であれば救急病院へ。

夜間救急病院案内

検索

つねってもいやがる仕草をしない

重篤な状態です。
救急車を呼んでください。

判断に迷ったら・・・

東京都内、神奈川県内は#7119

で救急車を呼ぶべきか判断してくれます。

飲酒にかかわる問題が生じたら、所属キャンパスの学生部・学生相談室・保健管理センター・ハラスメント防止委員会などの学内諸機関にご相談ください。

三田学生部 学生生活支援担当
日吉学生部 学生生活担当
信濃町学生課 学生生活担当
矢上学生課 学生生活担当

03-5427-1568
045-566-1025
03-5363-3665
045-566-1466

湘南藤沢事務室 学生担当 学生支援グループ
0466-49-3408
看護医学部事務室
芝共立学生課 学生生活担当
0466-49-6200
03-5400-2683